京城新聞

●民長官選に對する仁川議員（續）

然るに關らざりき今日の官選民團長問題とならんとは之を輕く見る人は縱し民長は人民より選まるゝとしても官の助言があるので官選になつたからとて聊か此助言干涉が一層激しくなるだけで單に程度の問題に過ぎぬのであるとする又た反對に重く見る人は兎に角內實は如何であつても形式の上から人民の意思を度外視するは人格上容赦す可らざるものであると慨く者もある然れども我れ／＼は仁川の實業家である餘り政情に走らざる實益の上より打算して事を行て貰ひたい或者は仁川の議員、仁川の居留民を冷評して曰く彼等は麪麭のために齷齪せねばならぬので政治問題に騷ぎ廻る暇がないのであると併しながら我れ／＼は之を惡罵の言に聞くの必要はないのである我等は却て之を我に奉た讚辭として聞く可きである我等は純然たる政治家ではない故に徒に大言壯語して快を一時に貪る可きでないは勿論唯だ望む處は實利實益を占むるやうな政治を布いて貰へば足るのである故に私は此問題は何うしても關らない積りは三十年の歷史仁川は二十年京城も亦二十年の歷史を有して居る居留地である當初は自治と名の付くものはなくとも其本質は早くも萌して居たのである其れが漸々發達し進步して遂に立到たもので而も今日まで未だ曾て非常に其運用上差支があると云ふ事がないのである然るに統監府は突然民長を官選にした其理由が頓と我れ／＼には解らぬ察する處是れは何かの間違だらう我れ／＼は被治者の眼よりないのであるが治者の側にたつて大きな眼で睨んだならば或は高き處に考があるのかも知れぬ例へば民長官選にせる事は理事廳なるものも理事官なるものも一切廢して統監府直轄のものにするとか或は全然居留地の制度を廢して夙年の希望たる韓國に於ける外國人の治外法權を撤去するにあるのかも知れぬ若し然らずとすれば其如何なる必要に出でたるか之を解するに苦む大邱の如き龍山の如き或一二の居留地には一は民長の人選に就て一は議員の選擧に就て小紛擾小失態は有つたかも知れぬ併し單に之れのみを見て此問題を惹き起せりとするのは皮相の見であらう是等一部分の小居留地に小紛擾あればとて三十年二十年餘の歷史を有する居留地までも同樣の處置を取ると云ふのは聊かも理由のない事である惟ふに民長の官選も民選も互に一利一害あるなる可く縱令一小部分に惡しき處あればとて之を以て全般を蔽ふは解し難き處なれば多分左樣ではあるまい或は我れ／＼の知らぬ處に對韓政策上民長を官選にせねばならぬ當然の必要があるのかも知れぬ大事の前の小事は捨てねばならぬと云ふ事もあるから若し果して然りとせば我れ／＼は多少の苦痛を忍んでも此方針に從はねばならぬ何にしても統監なり副統監なりに面會し先方の趣旨のある處を開けば當方の打明けた事情をも詳細陳述するの必要があらう仁川としては是れまでの歷史上熟々其所以を究めたのである其上にて我れ／＼の從ふ可き方針を確立したいと思ふ終に臨んで私の希望を略序致しますれば（一）若干の委員を選み上京して統監なり副統監なりに面會し膝を突き合はして民長官選の趣旨のある處を伺ひ（二）私共下情の存する處をも詳細具陳し極打解たる處の話にて此方の內情を打明け（三）其委員の報告に依て熟々利害得失を考察し我れ／＼の方針を一定したいと云ふ此三箇の目的に外ならない即ち統監に上申とか陳情とか云ふ以前に統監に懇談したいのである其上の事で若し其筋の方針に隨ひ官選でも差支なしと決定せば其れに從ひ又た我れ／＼の意見も充分容れて貰ひたいものである云々

●賊徒討伐情况

慶尙南道山淸守備隊より派遣せし五名の斥候は八月廿一日山淸西南三里大源寺東北約一里に於て約五十の賊を攻擊し其三を殪し火繩銃二十餘其他若干の雜品を鹵獲す△堤川守備隊少尉以下二十名は八月十日夜半酒泉南方約半里の公賢院附近に於て約二十の賊徒を發見せしに彼等は直に逃走せしが之を射擊し其一名を殪せり△慶南晉州守備隊長以下十名は八月十九日夜半安洞（晉州北方約四里）附近に於て盧應斗の率ゆる約二十五名の賊の宿泊せる家屋を包圍し其八名を殪し之を四散せしめたり火繩銃六刀二其他若干品を鹵獲す

雜感

讀者文壇　不言生

耐へがたきあつさもきへてあさかほの葉末にのこる月の白玉とでも云ふべき一夜しかも萬籟靜まつて音なく聲なきの夜半不圖目を覺まし窓外に出づれば月は一點の翳翳なき大空に懸つて滿地隈なく照臨せり此月に對してはさながら吾が肺腑まで照り透さるゝの心地して轉々萬感胸中に湧出す顧へば我が幼時母國に在つて母の背上にて御月樣なんぼと歌ひし月も四十年後、虎伏す韓國の旅舍にあつて眺むる今夜の月も月に於て更に變ることなけれどもさても變り果てたるは我が老ひたることよと思へ四十年間は一彈指一瞬時の如しと雖も春夏秋冬を重ぬる既に四十の星霜にあらずや其混沌として短きにあらざるなり而して此四十年間我れは果して何を成せるやと一々詮し來れば一も爲す事もなく只だ徒食す[illegible]我は亦た何を爲すべきやと尋究すれば爲すもなすべき事も見當らず經過の四十年と更に異なることなけむ實に人生は盟より盟に移つる五十年と云ひし如く其間何の爲す事もなきものなるか古來賢人哲士英雄豪傑が我名を後世に留めんとて苦心焦慮するも徒らに煩惱のみ煩惱は人生に害あつて益なしさ云ふと雖も、此煩惱は此世の當相なり此煩惱あつてこそ人世の人生なれ噫煩惱なる哉煩惱なる哉釋迦や孔子を一拳に打殺せずんば大盜やまずとは雲門か將た老子の徒なり思へ權あつて而後、輕重を知り度あつて而後、長短を知る此知り聖人あつて而後、世の得失を知る此知るの心より人生は既に義務を盡さんと欲して煩悶するものなり既に義務を知れば其義務を盡して以て安きに就かむと欲するの心生ずるなり茲に一つの義務を盡せば亦た二の義務を生じて遂に已む時なかる可し果して然らば人生は義務履行の爲め煩悶するものなるか此煩悶の止息は義務の終局なり義務の終局は只た死のみ只た永眠のみ噫死耶死耶宇宙の森羅萬象は吾人各自が第七識心王の所現なり此所現に對して吾人は吾人と煩悶するのみ天地悠久と雖も既に阿羅耶所現なり我れの死と俱に吾れの天地永く滅するなり若し亦た我が死後天地永存せりと云はゞ其天地は我れの天地にあらずしてそは地人所現の天地なりと云ふは只た是れ一應の見解にして再應の深義に非ず他人所見の天地も亦た究極すれば我の所現なればなり試みに思へ今の吾人は神武天皇以前の吾人にして天地初發の初めに在つて亦た宇宙終局の終りまで存することを故に吾人は今後幾百萬年の後に至るも決して死せざるなり天地と俱に悠久なり悠久なるが故ゑに此浮生五十年間の事業は永生の事業なり永年の生命なり噫事業なる哉事業なる哉

五月闇

（二）

「山川、今日は久し振の事でもあり、殊に恐う遲く參つたのだから、一泊して、寛々と齋正して貰ひたいが、差閊はないであらうね。」

雅教が言へば、「はい難有うございますが、明朝大坂まで參る約束になつて居りまするで、御詠草を拜見致しまして終列車で歸るやうな事に致したうございます。」

「然うか、然う云ふ約束があつて見れば止むを得ない、それでは先づ句を見て貰つてそれから緩々と話す事に致さう。」

「嘸かし御名吟が澤山に出來なすつたでございませう。」

「イヤ非常な名吟ばかりが澤山出來て、定めて宗匠も驚くであらうと、君の來るを首を伸して待つて居たのだ。はゝゝゝ」

快活に笑ひながら手文庫の中から、詠草を出して渡すと、山川は一目見るより、

「これはゝゝ、五月雨百句ですか、隨分お吟になりましてございますな、能く拜見致しませう。」

と、仔細に目を通して、探るべき句には一々點を施した後、

「恐ら申すと誠に失禮でございますが、私の始めて拜見致しました頃は、兎角主觀的にれ詠みになりましたので、奈何も趣味が少ないやうに思はれましたが、もう近頃では天明頃の先哲の句を讀むやうな心が致して拜見致します、殊に今日の御句などは、到底未熟な私どもの想及ばん名句が澤山に見受けられます、僅か一年あまりに斯うも御上達なさると云ふは、眞個天才の然しむる所だと存じます。」

「イヤゝゝまだ迚も何らしい句は詠めないが、しかし自分ながら、少しは調子が取れて來たとは思ふのだ。此分で研究を重ねたら茲二三年も經つたら、どうにか俳句らしいものが詠めるだらうと思ふ、御足勞でも[illegible]」

「イヤどうも若樣には恐入りました、大抵な者なら此位の名吟が出來るやうになりますと、忽ち立派な宗匠にでも爲り澄した意で、それなりきりに研究を廢める人が先づ十人の九人でございます、しかるに此上兩三年研究をすると有仰るは、唯々感服の外はございません、及ばずながら共研究致しまするでございます。」

かゝる談話の中に、小淡泊した肴が三四品とサッポロビールとが運ばれた、雅教は手づから瓶を取つて、

「サア何にも無いが、君の好なサッポロビールだけが饗應だ、一つ酌を致さう。」

「何ひます度毎に御馳走に預りまして、誠に恐縮致します、折角の思召でございますから無遠慮に頂戴致します。」

と、コップを手にして泡たつビール溢るゝまで受けて、息をも繼がず呷と呑み干した、それよりは面白可笑打語らひながら、やゝ時は酒宴に時を移したが、互に陶然とした頃山川はうらゝゝと一句を記して雅教に進め、

「私も一句浮びました、御添削を願ひ申します。」

京城新聞

支那人の勢力

侮る可からず

支那人の商業的勢力の偉大なるは今更に說明するの要なし、世界何れの處にも支那商人の居らざる所なし、歐米繁盛の市場に於ても堂々として歐米商人に拮抗し、其取引の堅實にして利を收むるに敏なる、夙に歐米の商人をして舌を捲かしめたり、渠等は大市場の取引に敏なるのみならず、如何なる不毛邊疆の地にも侵入して微細の利を得るにも長せり、射利の術に長せるは支那人の特性なるが、此點に於ては恐らく天下獨步ならん、日本は日露戰役以來一等國の班に列せりと雖も、海外に於ける日本人の勢力は之に伴はず、之れ經濟的勢力の薄弱なるに依れるなり、換言すれば日本人は商賈下手にして射利の途に拙劣なるが爲なり、之れ國威の發揚せる割合に日本人の幅の利かざる所以なり、商業的方面に於ては日本人は多く支那人に學ぶ所なかるべからざるなり。

見よ韓國に於ける支那人の勢力を、日淸戰役前、袁世凱が公使として漢城に飛ぶ鳥を落せし頃は、支那人に非ざれば人にあらざるが如く、從て其商業の振ひたる日本商人は到底足下にも寄付けざりしなり、韓人の如きは古來支那を怖れ、先天的に支那人は一種の高等なる人種の如くに迷解し、大國人として尊崇したり、射利の巧みなる上に斯る尊崇を受けたれば商業上の發展は目覺しきものあり。然るに戰爭は日本の勝利[illegible]退し、韓人亦支那人を尊崇する迷夢を醒[illegible]を與へたり、日本人は戰勝の餘威を以て韓人に臨み、韓人との貿易にも幾多の便宜を得たるが故に日本人の商業は長足の進步をなし、然るに渠等は其間に潜勢力を養ひ、徐々として商權回復を策し上海及香港の商人と[illegible]取引せしより、漸次に勢力を回復し來りて[illegible]、韓國に於ける支那人の經濟的勢力の一部が發現したるのみ、[illegible]の背後には上海の豪商あり、既に昨年は人參に資金を投ぜんとして其手代を派遣し來れり、斯く共通的資金の取組あれば如何なる大計畫も爲し得べきなり。而して其貿易額も漸次に增加し、昨年に於ては三百餘萬圓なりしものが本年は今日迄に於て既に其額に達せんとし、人口の如きも昨年に於ては一萬內外なりしも本年は既に二萬に達せりと聞く、此勢を以て進めば前途の發展知るべきなり。

余輩は支那人の勢力進張は淸韓の貿易を殷盛ならしむるものなれば之を排斥せんとするものに非ざるも、我日本商人が進で渠に優るの發展をなさんことを希望するなり、故に余輩は我商人の奮勵を促さんと欲するものなり。

東京電報

▲三重丸船員の判決取消

露國は日本との親交を重んずるにより三重丸船員に對しては死刑の判決を取消し微罪を以て論ずべしと

▲操典審査委員任命

陸軍大將大島久直步兵操典改正審査委員長仰付けらる(以上二十六日發)

▲外務大臣親任式

本日午前宮中に於て左の如く親任式を行はせられたりと同時に寺內氏の外務大臣兼任を解かれたり

任外務大臣 伯爵 小村壽太郎

雜報

●拓殖法案裁可

內閣會議にて決議したる東洋拓殖法案は上奏中なりし所二十六日を以て裁可あらせられたり同法案の條項は四十ケ條ありと云ふ

●拓殖會社創立委員

東洋拓殖會社の關係法規は愈よ今明日中に勅令を以て發表せらるゝ筈なり創立委員は日本側七十四五名韓國側三十四五名にて該委員の任命は右の勅令發表後一週間以內に發表の由なれば多分來月三四日の頃なるべし委員とは全然別人にて宇佐川中將の總裁は確定し居れるが如し尙韓國政府の持株は驛屯土約七萬町步を提供して之を其持株となす由

●私立學校裁可

兼て調査中なりし私立學校令は二十六日裁可ありたれば本日頃勅令を以て發布せらるべし之れと同時に學會令も裁可あらせられたれば同時に發布せらるゝならん

●鐵道復舊費

過般降雨の爲め損害を蒙りたる京釜鐵道の復舊費に就ては遞信大藏の兩省協議中なりしが右の損害の端所は假工事のもの多く爲め約八十萬圓を以て復舊し得る見込にて全部第二豫備金より支出することに協定纏りたりと

●梁起鐸の入監

英國政府の公正なる處置により引渡された大韓每日申報の被告人梁起鐸は既報の如く大韓醫院に入院後佐藤博士の診察により極めて輕微なる慢性胃加多里にて入院治療を加ふるの必要なき事明白となりたるを以て再び昨日京城監獄未決房に收容せられたるが其の公判期日は一兩日中に決定せらるべしと云ふ

●外人に對する日本人態度の變化

某米國人談

余輩、日本に在る已に九年、日本人に多くの知己朋友を有し、就中、居留外人よりも日本人を親密にして、明媚なる日本の山水、幽邃なる日本の風光、優雅なる日本の風俗人情、瀟洒懇切なる日本人の性質等、一として余輩に滿足を與へざるなく、凡百の事物、悉く愉快に看察せられざるなし、實に余輩は、今日迄日本人の親切、殊に余等外人に對する懇情に對して感謝する者なり、余輩は、商用を帶びて、各田舍を旅行する事一再にして止まらず、從つて日本の生活にも慣れ、田舍人士にも接する機會少なからずと雖も、彼等も亦都人士の如く、出來得る限りの親切を以て、余輩を遇せり。然るに、偶、外人にして日本に遊ぶ者が、日本の旅館に於ける食事、設備等に對して不平を唱へ、殊に日本の宿屋に大喝して不足を並べ、立行かぬ事情あるに想到らずして、宿屋の主人より不滿足なる態度を示されて立腹する如きは、郷に入つて郷に從はざる者にして、余等は本に馴れたる外人の擯斥する所なり。

今日迄、余輩は、上述の如く、全然日本人に向つて滿腔の同情を表し、贔負の凡てを捧げたりしが、近時、日露戰爭後、日本人の外人に對する態度の一變したる如き感あるは、日本人の爲めに悲しまざるを得ざる也、一言以て蔽へば、現下、日本の新聞記者、役人、商人に至る迄、日本人は諸外國人に勝るとの自負心を抱けるの概あるなり、余輩素より日本人を以て外國人よりも劣れりとなすものに非すと雖、自から傲然優勝の地位にあるの態度を示すは、在留外人に不快の感を抱かしむるのみならず、國際上及び個人の禮儀上より見て悲しむべき現象と斷せざるを得ざると同時に、日本人は戰捷の餘光に醉ふて自から欺きつゝある渦中に陷らん事を憂慮せざる能はざるなり。

余輩の知れる、最近の悲しむべき現象は、大阪に於ける某有力なる新聞紙が、筆を極めて外人を攻擊し、甚しき條に於ては、神戶及橫濱に在る外人に雇はるゝ日本人は、其主人に婦人を周旋するが爲めに傭聘せられ、其極端なるは、自己の妻女を外人の慰物に供して翫弄の道具となさしむるを聞きては、外國人の個人的道德は、腐敗其度を知らずと論斷せり。此の如き惡德なる記事が、堂々と日本有數の勢力紙上に公表せらるゝは、余輩の悲しむ所、外國人と雖、倫不德の破廉恥漢なきにあらず、故に、假令、一二背德の事實ありとするも、直ちに以て其罪惡を外人一般の上に蒙むらしむる如き速斷偏見を公にするは、該新聞、否日本國民の爲めに浩歎せざるを得ず。新聞已に然り、而して日本國民は、亦此の如き記事言論を歡迎しつゝあるが如きは、日本人最近の現象にして、曾つては、吾人の夢想だもせざりし所なり。

更に、之れを商業上より見んか、日本人は熾んに外資輸入の必要を說き、其れが實行を見たるの傾向あるは、吾人、日本の發展を希ふ者の双手を擧げて左袒する所、曾つて青木子爵が、ウォーッス、オークに於て外資輸入の必要を論述せるを讀みたりしが、日本の發展するに從ひ、國の何たるを問はず、其資本を輸入して、益進捗を圖るは、日本國民は勿論、余輩も希望して止まざる所なり。此の思想は、遂に實現せられ。大坂に於て佛蘭西及白耳義の資本により硝子製造會社は發起せられ、九州に於て佛國の資本を利用して一大材木會社は設立せられたりしが、何れも九仞の功を一簣に虧くの悲運に陷りたるに、新聞紙の傳ふる紙背、行間に表はるゝ無聲の叫び及不文の文字によつて推察すれば、社會は其不成功を喜ぶが如く思惟せらるゝは何ぞや。

彼等が多く不成功に終る所以は、資本家の干涉と其支配を好まずとの強きセンチメントに餘せらるゝにあらんも、資本家が支配するの權利なしとせば、日本に外資の輸入杜絕するは明々白々の事理に屬す。方一、外人の資本によつて事業の成立するも、其支配を好まずとせんか、其所には、必ずストライキ或は暴動等忌むべき擾騷をや釀さん。現に大阪に於ては一日六十錢を以て契約せる職工が、やがて無法にも一圓五十錢を請求し來つて遂に收支相償はざるに到れりと、又、九州材木會社の勞働者の如き、凡その職工長が、一日六十錢の賃銀にて、その職工を雇入るゝ契約をなせるにも拘らず、事實、三四十錢を以て職工の賃銀としたりとて大動亂を爆發せしめ、二十萬圓余の機械を破壞したる如きは、吾人の最も遺憾とする所なり。而かも、新聞が此記事を掲載するに當つて、寧ろ、歡迎的言辭を弄せるものあるに於ては、其無智無識に呆然たらざるを得ざるなり。今、かりに外國の資本を以て事業が經營せらるゝは不利なりとするも、該事業の經營せらる可き土地及び其周圍に居住する國民は、其成功を望まざる可からず、知らずや、外人が其事業によつて一萬圓の利益を收得したりとせんか、事業に於て一萬圓の利益を贏ち得るには、勞働者及飲食其他に於て十倍の金額を拋たざる可からざるを。又、月給取が如何に增加すとも百圓の月收を得る紳士が五圓を貯蓄するは容易の業に非ざるを。由來、事業は、其本質として、五圓の純益を擧ぐる所には必ず十倍の金額を其土地に拋たざる可からず。故に、外人が事業を開始すれば、其土地は間接直接に多大の潤澤に浴する也。然るを外資を以て事業を企てんか、茲に悶着を起し資本主に對して非常なる迷惑を蒙むらしむる如き傾向あるは、吾人の解釋に苦しむ所、而かも曾つては此の如き現象なく、戰捷後新にせられたるを見て、吾人は、此惡現象の爲めに戰捷の餘光を暗黑に導くなきやを虞るゝ者なり。

外資を以て築かれんとする事業は、日本に於て、恒に破壞せらるとせば、例命、其原因、是非何れにあるも、世界の資本家は其の原因を索ぬるの餘裕なく、直ちに日本人を嫌惡するや必せり、余輩は、日本の將來の爲め、此變化せる惡現象の打破せらるゝを切望する者なり。日本が世界列強の班に列し、平和の戰場に於て大奮鬪を試み、世界の舞臺に濶步せんと欲せば、玆に思を三度して猛省す可きに非ずや。

●間島方面無事

間島問題は數次の交涉を經て目下は淸國側の辨明に對し我政府より何等かの措置に出づべき順序となり居れるが同方面にける淸兵の現狀如何といふに昨來增兵の噂あるも右は今春にける淸國守備兵が交代のため同方面を通過せるを訛傳したるものにして淸國が特に同方面に增兵したる事實なく隨がつて我憲兵隊と衝突する等の虞なしと又露淸國境にける露兵と淸兵との間も至つて無事にて夫の韓國暴徒李範允の一隊が豆滿江の彼岸に現れ間島を襲はんとすとの風說に對しても我政府は露國政府に對し[illegible]警戒せしに露國政府は滿腔の同情を以て之に答へ直に同方面の守備隊に訓令し韓國匪徒に何等關係すべからざる旨警戒したる由にて同方面の現況は何等顧慮すべきものなしといへり

●昨日の即位紀念式

昨日の即位第一回紀念式は前日來の降雨も午後より晴れ模樣となりたれば市民の喜び一方ならず各戶國旗球燈を掲揚して祝意を表し各官公私立學校生徒は例の如く敦化門前に至り万歲を唱へ府民團の大祝賀會は景福宮內慶會樓に於て開催され內外人三千餘名の列席あり夜に入りては既記の如く提灯行列を催せしが頗る盛會なりし

●敦化門前の光景

昨日は隆熙皇帝即位第一回の紀念日なりしが韓國官民は數日來祝賀の準備に忙はしかりしも前日來の降雨にて如何あらんと氣遣はれしが午後一時過ぎより雲も薄くなりて日光さへ洩れたれば一般の喜び一方ならず太極の國旗は和風に飜へりて太平の瑞祥を現したるが此の雨霽に各學校生徒等は各教師に引率せられ昌德宮敦化門前に至り頌德歌を謳ひ萬々歲を三唱したれば此光景を觀んとて集りし韓人多く同門前より鐘路通りは非常の人出にて混雜を極めたり

●仁川府尹の即位祝賀

既定の如く昨日仁川府尹は韓帝即位祝賀式を擧行し午前中日韓官吏の祝賀を受け午後二時より祝宴會を催せり

●火災保險率引下

東京明治日本橫濱共同の五大火災保險會社協定の下に此程より韓國に於ける保險率の引下を斷行するに至りたるが今詳細なる率を擧ぐれば左の如し

一木造瓦葺金屬葺住宅店舖、倉庫、一ケ年最低率千分の四十とありしを居留地內千分の三十居留地外千分の四十と改む

二石造煉瓦造土藏住宅、店舖、倉庫一ケ年最低率千分の十八とありしを倉庫を除きたる右の住宅店舖の內居留地內千分の十八居留地外千分の二十五と改む

三第二より除きし石造煉瓦造倉庫一ケ年最低率千分の十八とありしを居留地內千分の十二居留地外千分の十五と改む

四土造倉庫一ケ年最低率千分の二十五を居留地內千分の十八居留地外千分の二十五と改む

五四方十間以上空地ありたる時は二割引

六四方建物を有する時は二割增又三方に建物ある時五分增のこと

●官撰問題委員協議

昨日午前十一時より民長問題委員五名は足立議長宅に集り今後の交涉方針を協議したる上信夫理官を訪問したる筈なり

●憲兵補充員の來韓

今般韓國駐劄憲兵補充として內地より將校以下三百名の憲兵來韓の筈にて其內二百人は明廿九日仁川着港の豫定なりと云ふ

●間島暴徒の首領

暴徒の首領柳麟錫が黃海道方面より逃がれて淸國吉林省に入りしことは既報せしが後報に依れば柳麟錫等は間島暴徒の首魁たる李範允、全仁兼、閔河植及び前主事にして露國に歸化したる金永禛等と連絡して露國より銃器彈藥等を密輸入して事をなさんとしつゝありと

●橫山大佐鎭魂祭

元步兵五十一聯隊長大佐橫山新治氏の葬式は本日東京に於て營まるゝに付當地にては同日五十一聯隊營庭に於て鎭魂祭を擧行する筈なりと

●安東縣駐在米領事

歸國の途次入京したる安東縣駐在米國領事シーゼー、アンチル氏は一昨日の夜行列車にて出發したり

●沿岸觀察一行消息

沿岸觀察中の宮木稅關長、立石幹、山本會議所書記の一行は昨朝巨文島に至り本日歸仁する豫定なりと

●三浦氏の申込

本日發行貴紙第四十六號社說韓國監獄改良の論旨に對しては何人も異存あるべき筈なしと雖も斯る具體的の問題を論議するに當りては充分事實を調査したる上にあらざれば稍もすれば世人を惑しむるの虞なしとせず然るに右社說中事實相違の廉一二に止まらざるは遺憾とする所なり

第一社說には苛酷極る蠻的拷問の如きも廢せられずとあり韓國刑法は笞刑を存すれども拷問の惡制は最早存在せず、第二幅十四尺橫十二尺の獄室に二十人を收容したりとあり、囚徒の著るしき增加の爲め一時多數を收容したることありしも今や僅かに五六人に減じたることを忘るべからず又天井は極めて低く到底直立する能はずとあり多數を收容するは橫臥の餘地は十分ならざるも天井は直立する能はざる程低からず、第三室內暗黑にして光線を見ざるのみならず殆んど空氣の流通を缺けりとあれども獄室の兩側には小なれども多數の窓を穿ちありて光線の透入、空氣の流通は不充分と認むること能はず尤も囚人の被服は大抵皆不潔にして一種異樣の臭氣を放つことは事實なれども之を以て直ちに脫獄の主因と看做すは當らず、從來韓國囚人の取扱は規律もなく節制もなく囚人の出入及囚人と外界との交通杯勝手次第にして囚人は何等苦痛を感ぜざりしものが一定の規程の下に正式に取扱ふに至りたる爲め左なきだに隙さへあらば脫出を試みんとする人情に加ふるに規律の束縛を厭ふて往々脫獄を企つるに至りたるや疑を容れず、

之を要するに韓國五百餘年間の腐敗惡政は二年や三年にて掌を反すが如く改良し得べしと豫期するに至りては恐らくは無理の注文にして彼の通り一遍の觀光者たる「マッケンチー」の下したる速斷の如きは他山の石として參考の價値は沒すべからざるも往々人をして其の忠告の果して善意に出づるや否やを疑はしむ韓國政府に於ては一には普通韓人の生活程度をも斟酌して追々獄制改良に着手するを疑はず現に獨立門外に新築したる監獄の如きは旣に竣成し多少不備の點を補足する上は先づ完全に近きものを得べしと思料す、

右正誤方々申入候明日の貴紙相當欄に掲載相成度希望候也八月二十七日三浦彌五郎

京城新社御中

●近事片々

▲昨日 韓皇の即位紀念祝日なりしに生憎朝來細雨霏々爲に折角の催しも止み市中寂寞

▲二三 日來の風雨は二百十日に近づきたれば其徵候ならん乎是で濟めば結構至極也

▲伊公 嚴妃の來遊は眞ならざるも太皇帝御揃ひの御來遊は早晚事實とならんと云ふ

▲伊藤 公が斯く語りしや否は知るべからざるも公の胸中には常に此感念あるならん

▲或は 此事早晚事實となりて現はれ來るべし之も公が韓國統治掉尾の色彩ならん乎

▲陸軍 豫算延に就て寺內は桂首相と衝突して寺內辭意を漏らしたりとは眞ならん

▲桂首 相は大決心を以て財政の整理を爲さんとし爲に寺內陸相の說を斥けたる也

▲寺內 陸相及外松經理は爲に辭職し井上大將或は木越中將が陸相たるべしとの事也

▲桂首 相に此決心ありて始めて財政の整理をなし得べし斷然たる所置は此際必要あり

▲小村 伯歸朝して外交上に多少面目を革むることゝならん外交刷新は方今の最急務

▲桂內 閣に於ける小村外相は重鎭なり外交家としては方今此人を第一に推すべき也

▲自身 も此際腕を揮ふてポーツマスの舊痕を治せざる可らず初幕は先づ對淸政策乎

▲大浦 農相の博覽會嫌ひの爲に博覽會が繰延にならんとは甚だ怪しからぬ次第也

▲如何 に繰延の時代とは云ひながら斯る生產的關係の者迄繰延とは少々閉口する也

▲米國 にては既に委員の派遣まで決定せるに非ずや斯る消極的政策は斷じて非なり

▲會長 を更迭して有爲の材を擧げて大々的設備を爲せ是戰後經營の好事業ならずや

▲平田 內相は縞のズボンに見すぼらしき上着で徒步にて登省し屬吏共大に閉口すと

▲次官 の一木喜德郞も詰襟の洋服で之も徒步にて登省し來る省紀爲に振肅せんとす

▲大臣 も次官も共報德會の人二宮翁の教を實踐するもの驕奢の屬吏共に好き手本也

▲今や 驕奢華美の風滔々たる時に內務に斯大臣と次官を得たるは之が矯正に効あり

▲奏任 官にでもなれば鬼の首でも取た氣になり抱へ車を置て氣取る奴等に頂門一針

▲人參 の入札は終に淸商同順泰に落札したり之れ資力の競爭以外販路の關係ある也

▲三井 の手を離れて支那商人の手に落ちしは頗る遺憾也次期の入札には取返すべし

▲依之 觀之も專賣は面白からず從來人參は大分日本商人を需はしめたる者今やなし

▲在留 邦人一般の爲には專賣法でなく自由競爭を爲[illegible]

短編小說

指環

下の一 青楓作

松吹く風に和して、幾番かの瀏喨なる樂の調も濟んで、最後に奏でた純然たる日本歌の梅が枝は、數百の聽者の拍手と喝采とを以つて、今日の演奏も先づ目出度く終を告げた、軍樂隊の一團は、意氣揚々と靴音高く、紀念碑の前を通つて石段を下りて行く、後に殘つた聽者も、軈ては蜘蛛の子を散らしたやうに、各自思ひ〳〵の途を取つて歸るもあれば、止まつて涼風に月を歌はんとするハイカラ連もある。

「貴郎どうあつても上らつしやるの、」

「ハア天頂まで上るのですが、貴女にも是非御伴をして貰ひ度いのです」

「だつて[illegible]ないんですもの、女ですからね」

「じやなんですね、僕と同伴に登るのが厭なんでせう、厭ならいやで宜敷いのです、敢て無理には御勸め申さんのですから」

「イ、エ、貴郎と同伴に登るのが厭だなんて、決してそう云ふ譯じやないんですけども……」

「いやじやなければ登ろうじやありませんか、ね、宜いでせう、內地には九歳で、併も女の子が單身で富士登山をやつたと云ふ話もありますぞ、何のこれしきの山を登れんと云ふことがありますか、サア登りませう」

年若き男女の二人は只臺を立ち上つた。

ともすれば、辷つて轉げそうな、此の南山の山道、一歩誤まらば身は千仭の谷底に落下るのである、女は幾度か轉げそうになつては、男の袂に縋り付き、喘ぎ〳〵て薄氷を踏む思ひしてやつと絕頂に達した。

「妾、眞實に恐かつたわ」

女は玉と流るゝ汗を拭ひ乍ら、振り返つて下を見る

「オヽ高い山ね、能く妾に上れたこと」と言ひ終つて身を悚然させる。

「ナーニ這麽山……アノ月を御覽なさい、山上の月は又格別ですね」

男は彼に思ひ出した如に、

「僕は此處へ來ると何時もそう思ふんですよ、あの市街にウヨ〳〵して居る何十萬と云ふ人間が、パンの爲めに朝から晩まで、齷齪と働いて居るかと思ふと寧ろ可愛想でならんのです、若し人間なるものが、パン以外に何等向上的趣味を持たんものとしたら人生は畢竟滿らんものですね」

「貴郎は、何うしても悲觀者ですわね」

「そうでせうか」男は淋しく笑つた、二人は間もなく國師堂の前に立つた。男は松の枝を折つて、夫れを石の上に敷いて、

「サア此處へ掛けなさい、疲勞れたでせう」と言ひ乍ら、煙草に火をつけて、スパ〳〵と喫ふのである。

空に雲は散り、星は流れて影一つ止めない、月はます〳〵得意と照り渡る。漢江の流は帶を伸したやうに幽に見ゆるそこに火影一つ彼れもパンのために漁る漁船であらう、山中の方では、頻りとプー〳〵の、韓人の笛の音がする、其のプー〳〵の音には吾が同胞よ疾く覺醒せずやと、籠つて居るかのやうに聞ゆ。

●民團徵税の注意

近來民團徵税委員と稱し税金を詐取する惡徒あるにより各納税者は徵税吏員の證票を携帶し居れる哉否やを慥めたる後渡すを安全とす而して民團役所より出せし徵税委員は必ず役所の捺印する領收切符(告知書に附屬し居るものにあらず)を交付するに付此の領收切符を携帶せずして告知書附屬の領收票の會計役署名の下に代印して税金を受取らんとする者は詐僞漢たるに付各自注意すべしとなり因に目下民團役所が派出し居る徵税員は九人にして尚二人の檢税委員あり參考の爲め其氏名と受持區域を左に掲げん

第一區 屆 森澤又推
御成町、青葉町、古市町、南大門外、吉野町、蓬萊町、南大門通一、二丁目、米倉町、相生町、旭町一丁目南側

第二區 屆 中村辰藏
北米倉町、太平町一、二、三、四丁目、長谷川町一、二丁目、舊王城附近一帶、南大門通三、四丁目、照義門通、和泉町、竹添町獨立門通り、西大門通り、本町一丁目裏通り

第三區 屆 松尾宗六
旭町一丁目北側及旭町二、三、四丁目、本町一、二丁目

第四區 屆 幾野幾吉
南山町一、二、三、四丁目、本町四丁目、壽町一、二丁目

第五區 屆 白濱千春
明治町一、二、三丁目、曙町、本町三丁目

第六區 屆 森善三
永樂町一、二、三丁目、竹園町一、二丁目若草町一、二丁目、水標橋、本町五丁目、黄金町

第七區 屆 戸田登
大和町一、二、三丁目、新町、東西四軒町

第八區 屆 松本鎮三郎
壽町二丁目、日出町、本町六、七、八、九、十丁目、初音町、初音町以東の各町東大門通一圓

官吏銀行會社員 屆 財部竹次郎
檢税委員(時宜に依り徵税をなす) 屆 奥柳吉 屆 野尻從吉

●仁川の風雨被害

二百十日もダン〳〵と近寄たればソロ〳〵と穩かならぬ天候を示し來りたるが此の間からの霖雨は未だに霽々と降りしきり何時晴れんとも測られざる模樣又々昨今の被害の程も思ひやらるゝなり左に昨夜の仁川に於ける被害の狀況を掲ぐれば

仁川海岸に碇泊せし關平形乃洋丸破損一(木村組)、同上流失(江口組)、同上四隻流失(豊田組)、韓船二隻流失、傳馬船二隻沈没、石船一隻沈没、其の他公園の樹木の倒れたるもの無數、市中電線數ケ所切斷

●西大將の令嬢と詐稱

して韓國を徘徊する怪しき婦人

先頃より韓國滿津附近を西大將の令嬢廣子(二)と名乘る婦人が徘徊して居る由にて同所理事廳松本理事より二十二日電報にて右は果して西大將の令嬢なるや否や取調べ方を東京麻布署に依頼したりしより同署にては直に同邸へ照會せしに大將の令嬢廣子は昨年四月頃兵庫縣神戸市山本通り五丁目元陸軍二等主計目下某銀行員小島仲次氏の許へ嫁し同地に居住し居ること判然せしが右の女は以前西大將邸へ雇はれ居たる小間使などの醜業婦に墮落して生活に困り同令嬢の名を利用し居る者ならんどいふ

●船夫の女房行衛不明となる

昨日午前五時よりの暴風雨の爲め仁川花房町海上に於て豊田組の船夫今井孫太郎は鐵材を積載して碇泊中同五時五十分頃船上にありて船の轉覆防禦に從事しつゝありし際其內縁の妻マツエが海中に轉落したるも之を救助するに道なきを以て己を得ず樽を投じ遣りたるにマツエは之に取付きたるも海流の爲めに押流されて遂に月尾橋を南に流れ行きたるが夫の孫太郎は如何ともし難く帆檣に登りて之を眺むるのみなりしが其中にマツエは行衛不明となりたるに孫太郎はマツエの私生兒節男(三)を背に負ひ狂氣の如くなりて行衛不明となりたるマツエの跡を追掛けんと海中にザンブと飛び込み游ぎたるも兒を負ひ居ることゝて身体自由ならず止を得ず之を見捨て月尾橋脚に游ぎ付きて上陸したるが背の兒は之れが爲め多量の海水を呑み居りて殆んど絕息し居りしも漸く蘇生したりと云ふ

●洛東地方の情況

洛東は尙州郡に屬し南東は一帶洛東江を限りて比安泰山の二郡に接し西は一綫の山脈を以て德村、鳳村、猪谷等の諸洞を包括し北は道南、洞新村の諸洞里を指て尙州府內に隣り地勢多く洛東江の冲積土を以て形成せられ大抵砂礫にして悉く丸山なり洛東は就中第一の大村にして人口亦稠密せり洛東憲兵分遣所管內通して戸數約七百人口三千八にて洛東に百五十戸五百人位なり

△人情風俗 は山間遊在の地方の如く醇厚にして一般貪利にして亦遊惰なり洛東は昔時慶北唯一の繫船場にして有名なりし所なれば附近一般自然當時の惡習を及ぼし爭闘を好み淫逸に流れ其結果として賭博の如き僥倖の利を期するもの多し

△產物 の第一を占むるものは米、麥、豆の三穀にして之に次ぐものを大根、甘瓜、綿布、綿布の類となす生業には養蠶養鷄を主とし漁夫船夫の如きも多し

△土民の日本人に對する感情 日本人としては商人加藤喜一郎外郵便所員二三等に過ぎず加藤は前年憲兵の駐屯せる當時より在住して已に四年有餘能く土民と相和し交際圓滑なり然れども資產に乏しく地方商人と對抗する勢力なく反て彼等に侮辱せらるゝの風あり

△土民の官憲に對する感情 當地に憲兵の駐屯ありしは日清戰役の後にして一度撤退となり降て日露戰役に於て更に分遣所を設けられ以て三十九年に至りしものなり其の間電信隊の派遣せらるゝあり因て官憲に對する感情は特に親昵して優待するの情あり就中憲兵は久しく恩威を布き今回の新遣の如き最も彼等の信賴を受け居れり

(未完)

●小蝶の憤慨

新町大桝屋に其の妓ありと知られたる至つて横幅の廣いソレに御面相の程も餘り難有からざる女郎ありけるが蓼喰ふ虫も好き〳〵にて馬鹿に此の女に頸つ丈になりてセッセと通ひ來る男は容子と云ひ金使ひといひ少しの申し分がなく大分女も惚れ拔き居りしがある晩男は二三人の友達の無理に勸むるがまゝに山遊樓に登り雪子とかなんぞ云ふ同樓切つての女を敵娼となし一夜の情を重ねたりしが男は雪子の手練手管にスッカリ參つて了ひソレよりといふものは以前の大桝屋には行かずセッセと雪子の許にのみ通ひ居りしを誰に聞いたか小蝶は男が寢返へり打ちしを嗅ぎ付け薄情野郎と許りに怒つては見たものゝ思ひ直すとヤッパリ男が戀しく堪らず近頃は近所の稲荷樣へ日參して只管其の男と雪子と仲が惡くなるやう祈り居るとかいふ

●泥棒ヨボ 曙町百番戸煙草商橋本千代吉方にては一昨夕方晩酌後家內打揃つて店の方には一向氣を掛けざりし隙を窺ひ朝鮮人一箱サラツて逃げ去らんとする處を家人が發見し跡追かけて引捕へ南部署へ突き出されたるは西部校珠峴統戸不詳張希植と云ものにて直に留置さる

●無事カチ 昨朝午前一時二十分本町二丁目を巡廻中の巡査全町七番戸柳垣總太郎方雨戸一枚往還に倒れ落ちて居るより早速家人を起し取調たるに何等怪しき影跡なかりしかば多分風の爲めならんと結構々々

●科料一束 相生町二十三番地廣島縣平民忠本太郎(三〇)は去る十九日午前十一時二十分頃南大門通一丁目路傍に於て裸体の儘を二十錢同町同番地平民川谷亥三郎(三九)十九日午前十一時三十分南大門通一丁目路傍にて裸體の儘を二十錢龍山元町一丁目三十八番地熊本縣平民澤村德一(三五)十八日午前七時二十分明治町二丁目街路に於て牛車を横へ交通を妨害の廉により三十錢旭町一丁目洗濯業福井縣平民島田勘三郎(三五)十日より二十二日に至る間自宅前街路に於て材木及塵芥を堆積したる廉により三十錢南大門通二丁目渡邊方雇人廣島縣平民佐藤[illegible](一九)は十七日午後五時二十分自宅前街路に於て裸体のまゝ荷造りして二十錢長谷川町一丁目雜貨商福島縣平民岡崎豊吉(三六)は十八日午前十一時三十分自宅前路にて馬車を横て通行を妨害し三十錢本町八丁目料理店末岡桝吉(三六)は酌婦を雇入れ乍ら屆出を怠りて一圓の科料

(平)(民)(文)(庫)

▲自己の不能不識にして且つ無智無學なるをも省みず濫りに野郎自大を氣取り而も恩誼ある先輩を罵り同僚を傷けんとする三文文士そんじよソコ等にあり此奴等は只最后の手段に訴ふるのみ他に方法あらず(一劒客)▲民團役所の掃除係に注意す例の糞擔ぎの韓人がソコ等此所等に糞尿をプチまけるには誰でも實際閉口して居るが又々一昨日僕の近所の廣ツ場にプチまけた何うしても監督が出來ないのかね(敢鬪生)▲又々霖雨かねオンドル住ひの吾々は全く往生する(安官吏)▲小品文はもう廢めたのですか(文學好)▲佳作がありませんから載せませんが絕對に廢めた譯ではないのです(係り)▲僕は御飯の配達をしたいが記者さん僞かるでせうか(訥坊)▲什麼か存じません(係り)▲南大門の西側の通りを早く通れるやうして呉れよ(隱居)▲秋は來れり……然れども(一貫生)▲太平町邊には新聞が二つある大に天下の風雲を捲き起すべしだ(太平町住人)▲曙町角の氷屋のおかみさんは却々に勉强家だ京城婦人の模範になる(井戸側)▲松風が無くなつて洗屋が出來た此の旨注進す(小僧)

●天氣豫報(自廿七日午後六時至廿八日午後六時)

西の風雨後晴

二十七日午前六時各地氣象概況 今朝低氣壓は西海岸に來りて七百三十八粍を示し將に上陸せんとするものゝ如く爲に全國天候險惡にして北部及中部は北の强風吹き降雨し南部は南の風吹き釜山墅天外は是亦雨天なり

講談 富本半平の身上(三)

夫れで大概折箱の仕末が付いたかと思ふ頃ツ〳〵便所から出て來て座敷へ顔を出すと客樣が皆樣御滿足でア、半平今夜は御苦勞だつたナとの御言葉其處で其座敷を濟ませて我家へ歸つて來て手前を相手に相變らず燒酒を飲んで居るとヤイ半平居るかと表の格子戸を足でガラリッと開けて師匠が手前の前に恐しい劍幕をして棒立ちに立つたのが善二さん——でムいました

善二さんの此姿を見て驚いたのは手前です賣り言葉に買言葉で半平師匠が若善二さんと喧嘩にでもなる樣な事があつては大變だと内々ビク〳〵もので居ると重ねて善二さん……ヤイ半平……ウヌが今夜の勤め振りは何だ……面白くもねえ人にばかり骨を折らせやがつて……夫れでウヌは仲間に濟むと思つてるのかと愈々惡口がつのつて來た此處までいはれちやア手前共なら當低默然つちやア居られませんが流石に腹の出來てる半平師匠、更に驚きもしなければ別に顔の色をかへるでも無く例のスゴンだ形をして好きな酒をチビーリ〳〵と飲みながら何にもいはず棒立ちに立つて居る善二さんの姿を爪先から頭、頭から爪先と見上げ見下して居るのです善二さんも何だか張合拔がした氣味でムいましたがひるみを見せまいとの量見ヤイ半平默然つて居ちやア譯が判然らねえ何とか挨拶をしろと其處にあつた膳が飛び上るまで力任せの足踏をして見せる夫れでも師匠は平氣の平左でチビーリ〳〵續けて居りましたがヤットの事でマア何でも宜いやナさう怒らずに一杯飲めと杯を善二さんにさしたのでムいます何酒を飲め……ウヌん家の酒を飲む位なら汚溝の水を飲まア人を馬鹿にしてけつかりやがると善二さんはカン〳〵納まら無い然し先刻から頻りと喧嘩を賣つて見ても對敵が夫れを買つて呉れ無い所かテンデ取合は無いから善二さんも一人では如何する事も出來ず覺えて居ろ……といふ捨臺詞を後に殘して表の格子を跳ッ返る程勢好くあたり閉めに閉めて師匠の家とは裏合せの自分の住家へと歸つちまいました

夫れを見送つて居た半平師匠はヤッめトウ〳〵歸つちまつたナ……如何だいあの風態は……此俺に喧嘩を吹つ掛けに來たんだがあんな者の相手になつてた堪りこぼしがあるもんか……チーモー一れ前も知つてる通り俺は足藝が得意だ若し相手になる氣がありやア太平樂を我鳴つて突ッ立つてる彼のそら肋骨の三枚目に見當をつけて斯トーンと蹴上げて見ねゝ可愛相だが善二めキューとれいでなすつて今頃は地獄へ旅さ其處を見逃してやつてるのが此方の情といふもんだと何處を風が吹くといつた調子で相變らずチビーリ〳〵と杯を重ねて居ましたが普通の男にや鳥渡眞似の出來無い藝ちやアありませんか

●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金廿五錢▲三ヶ月…▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金…
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別…
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城… 京城新聞社 電話六…